

令和7(2025)年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本年4月17日に実施しました、文部科学省「全国学力・学習状況調査」の分析結果について、以下のように報告させていただきます。この調査結果を分析することで、本校生徒の実態や課題を明確にし、学力向上のための学習指導の改善に活かしていきたいと考えております。

※今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

【教科に関する調査より】

『国語』

成果課題	【成果】 ○誤った漢字を見つけて訂正する問題で高い正答率が見られ、日頃から、毎時間の授業で継続して行っている漢字テストの取り組みが成果につながったと考えられる。 ○スライドや資料を読み取る問題でも正答率が高かった。普段から、スライドなどの活用などICT機器を活用した機会があり、こうした経験が問題の理解や情報の読み取りに活かされたと考えられる。 【課題】 ●基礎的な力はあるが、自分の考えを文章で表現する問題においてはやや課題が見られる。
指導の重点	・ 今後は、授業の中で自分の考えや感じたことを言語で書き表す活動をより多く取り入れ、表現力の向上をめざしていく。

『数学』

成果課題	○『知識・技能』の観点については、全国平均を上回っている。また、短答式の問題の正答率が高いことから、基礎的な知識が定着していることが伺える。 ○無回答率は、ほとんどの問題で府・全国平均を下回っていることから、最後まで問題に取り組む姿勢を持っていると考えられる。 ■『思考・判断・表現』の観点については、府・全国平均を下回っている。また、記述式の問題の正答率が低いことから、基礎的な知識を用いて論理的に考え答えを導くことに苦手意識を持っていると考えられる。
指導の重点	・ 授業の初めに行う『ダッシュ 80』は、基本的な知識を定着させる上で重要であるので、今後も継続して行う。 ・ 筋道を立てて考えられるようにするために、自分の考えを仲間に説明する機会を増やし、説明する人と聞く人両者が考えを深めていけるようにする。

『理科』

成果 課題	○記述式の問題に対しては正答率が高く、定期テストで記述式の問題を数多く出題している成果が出ていると考えられる。 ○実験についての問題に対しては正答率が高く、授業において演示実験や実験動画を見せることによって理解を深められていると考えられる。 ■元素記号を答える問題に対しては正答率が府や全国の平均と比べて大きく下回っており、誤答として化学式で回答している割合が府と全国の平均と比べて大きく上回っている。このことから、定期テストに必ず化学式を出題することにより、化学式が定着してきていると考えられる一方で、元素記号と化学式の違いを認識する点に課題が見られる。 ■モデルで解答する問題に対して課題が見られる。 ■全体的に無回答率が府の平均を上回っており、問題の最後まで取り組み切れていない。
指導 の 重点	・知識を使って、思考し、正しい答えを導く力をつけていく必要があります。そのために、論理的な思考が身につくような問題に取り組んでいきたい。 ・文章だけではなく、図を使用して自分の考えを表現する力をつけていきたい。

【生徒質問調査より】

☆見えてくる全体的な傾向

成果

生徒質問紙より、「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の問いに96%の生徒が、また「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに70%の生徒が肯定的な回答をし、府・全国の平均を上回っています。主体的・対話的で深い学びをめざした授業改善を進めてきた本校の取り組みの成果がうかがえます。

文部科学省・国立教育政策研究所の調査(R7年度)によりますと、『主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、そのような学習場面でのICT機器の活用頻度が高いと回答しており、その両方に取り組んだ学校グループの児童生徒は、それ以外の学校グループに比べて、各教科の正答率が高い』という結果が出ております。

引き続き、ペアワークやグループワーク、ICT機器を活用した学習など学びの形態を工夫し、自分の考えを整理し発表する場面や文章にまとめる時間を確保した授業づくりを展開していきたいと考えております。

課題と改善策

「学習した内容を、次の学習につなげられているか」という項目においては、府・全国の平均と同等の割合となっております。一方で「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、活かしたりすることが出来るか」という項目に関しては府・全国の平均を上回っています。本校では、各教科、授業の中で学習を「振り返る」活動を積極的に取り入れており、本校の昨年度結果からは大きく改善が見られました。「振り返り」のさらなる充実に向けて、今後も教員の研修会などを実施し、学校全体で取り組んでいく必要があると考えております。

家庭学習においては、学習時間をある程度確保している傾向にありますが、「学校の授業時間以外に、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」という項目に関しては、府・全国の平均を下回っています。課題にドリルパークを活用したり、本校生徒の強みであるICT機器を使って情報を整理したり、プレゼンテーションを作成することにも取り組んでいきたいと考えております。

☆項目ごとの数値（特徴的なもの）

<学校生活について>

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と答えた割合が高い

（峰中 83% 府 78% 国 79%）

○「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と答えた割合が高い

（峰中 81% 府 74% 国 77%）

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と答えた割合が高い

（峰中 83% 府 78% 国 79%）

＜学習について＞

- 「ICT 機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができると思う」と答えた割合が高い
(**峰中82%** 府 73% 国77%)
- 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と答えた割合が高い
(**峰中 70%** 府64% 国63%)
- 「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」と答えた割合が高い
(**峰中 77%** 府 70% 国 71%)
- 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができている」と答えた割合が高い
(**峰中 87%** 府 82% 国 85%)
- 「友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と答えた割合が高い
(**峰中 94%** 府 90% 国 92%)

＜自身について＞

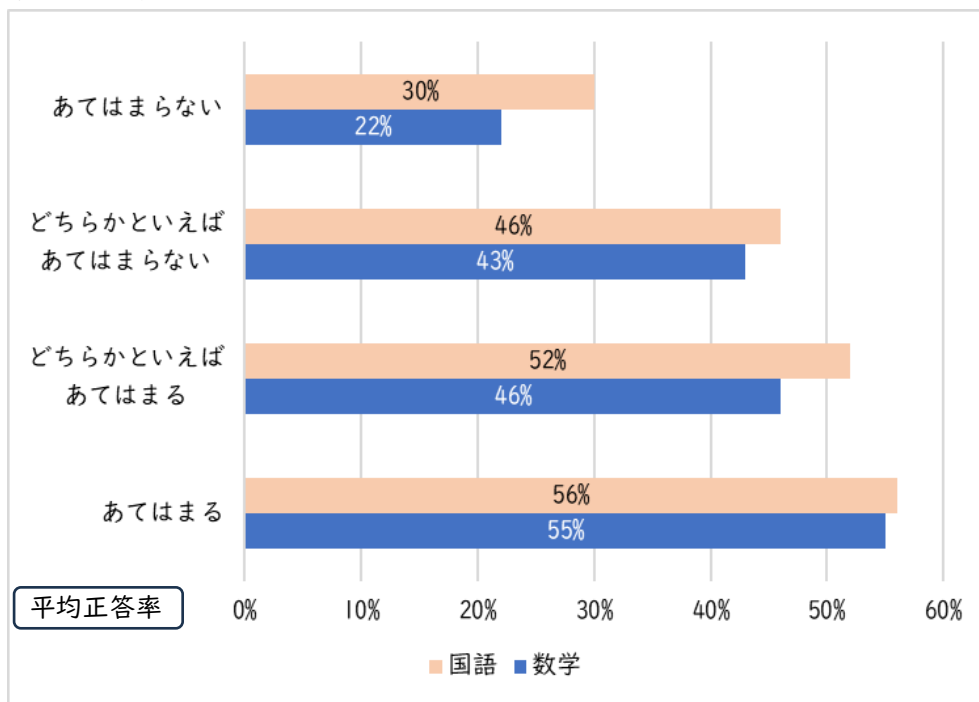
- 「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」と答えた割合が高い
(**峰中77%** 府70% 国 71%)
- 「自分には良いところがあると思う」と答えた割合は前年度調査結果より高くなっている
(**峰中 R6 80% → 峰中 R7 88%**)
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と答えた割合は前年度調査結果より高くなっている(**峰中 R6 70% → 峰中 R7 75%**)

課題と思われるもの

- 「朝食を毎日食べていますか」の問いに、『あてはまる』と答えた割合が低い
(**峰中 86%** 府 89% 国 91%)
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の問いに、『あてはまる』と答えた割合が低い
(**峰中 72%** 府 80% 国 81%)
- 「学校の授業時間以外に、平日、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っている」の問いに『30 分以上』と答えた割合が低い
(**峰中 57%** 府 63% 国 68%)
- 「学校が休みの日に、1日当たりどれくらい学習しているか」の問いに「2時間以上」と答えた割合が低い。
(**峰中 25%** 府 28% 国 33%)

【生徒質問調査（峰塚中学校） クロス集計の結果より】

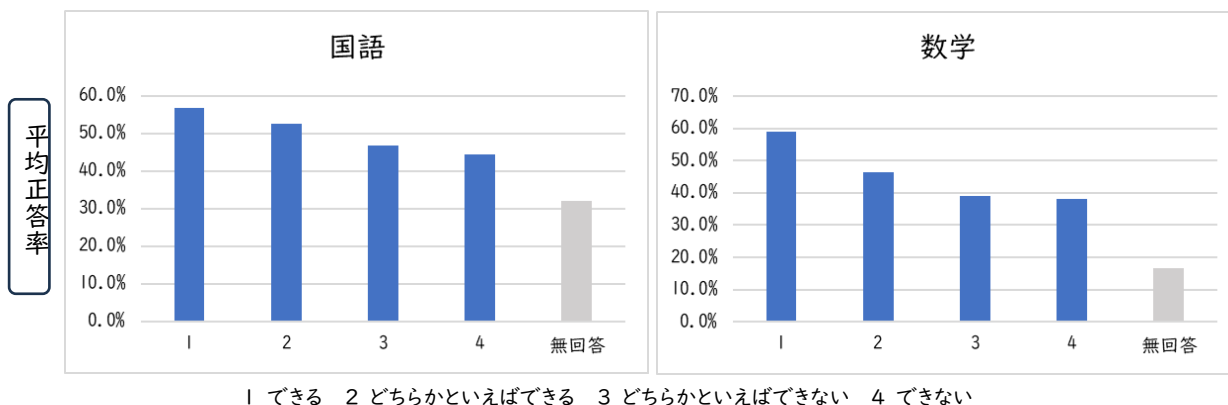
質問調査「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいる」の回答状況と「教科に関する調査」における各教科の正答率とのクロス集計では、以下のような結果が示されました。



「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいる」と答えた生徒ほど正答率が高くなっています。



質問調査「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の回答の状況と「教科に関する調査」における各教科の正答率とのクロス集計では、以下のような結果が示されました。



学んだことを「見直したり、次の学習につなげたりする」ことができる生徒ほど正答率が高くなる傾向があります。授業での「振り返り」の活用は効果的！ 振り返りの中身や方法にもこだわっていく必要があります。

